



卒業記念特別号

四季 ~四中の季節~

『正しく学び 自他を尊重し たくましく生きる力を育み ふるさとと共に歩む』

令和8年3月19日発行
校長 関 勝 志
〒187-0045
小平市学園西町1-3-1
☎ 042 (341) 4344
Mail gakkou@34.kodaira.ed.jp

令和7年度 第60回卒業式 校長式辞

校長 関 勝 志

正門の桜の蕾もふくらみ、やわらかな風に確かな春の息吹を感じます。校庭の池にはカルガモたちがお祝いにかけてくれました。そんな自然の祝福を受ける中、第60回卒業式を迎えました。

本日は、小平市教育委員会 地域学習担当部長 足立浩志 様をはじめ、多くのご来賓の皆様にご臨席を賜りました。心より御礼申し上げます。

卒業生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

今年度、小平四中は創立60周年を迎え、新たな学校教育目標の下で新しい時代を歩み始めました。皆さんは生徒の力で創り上げる運動会や合唱コンクールを、先輩たちから受け継ぎ、さらに進化させてきました。迎えた60周年記念式典では、厳粛な雰囲気の中、校歌と「ふるさと」の合唱は、素晴らしい歌声で愛校心と郷土愛、そして感謝を表現してくれました。最上級生として頼もしい姿でした。また、新たにつくってくれたものもあります。小学校児童会と合同で取り組んだ四中校区挨拶ウィークや地域と協力した中庭のプロジェクト、ダンス部の創設、念願の門遅刻0(ゼロ)の日達成など、これからの小平四中の土台を築いてくれた学年です。

2月にミラノ・コルティナ冬季五輪が開催されました。日本は過去最多となる24個のメダルを獲得し、スノーボードでは金メダル4個を含む計9個のメダルを獲得するなど、日本のお家芸と言えるほどの快進撃を見せました。そんな日本におけるスノーボード界の土台をつくった一人の選手が引退しました。スノーボードアルペン競技で活躍した竹内智香選手です。竹内選手は18歳のとき、高校生で五輪出場を果たしました。しかし、その頃の日本ではスノーボードのイメージはあまり良いものではありませんでした。競技スポーツとしての認識は薄く、遊びの領域でした。竹内選手は日本には世界で戦うための環境が整っていないと考え、たった一人でスイスへ渡る決断をしました。周りの反対を押し切って、言葉も通じない、コーチもない、そんな孤独で過酷な環境に自ら飛び込み、スイスのナショナルチームの練習に参加して技術を磨きました。そして、24年間、7大会連続で冬季五輪に出場するという偉業を成し遂げたのです。「為せば成る」を体現しました。

「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」

これは、江戸時代に米沢藩主として活躍した上杉鷹山の言葉です。「やればできる、やらなければ何事もできない、できないのは人がやろうとしないからである」という意味ですが、戦国時代を代表する武将、武田信玄もまた同じような言葉を残しています。しかし、頑張ればどんな目標でも達成できるか、結果が出せるかといえは、そうでないことの方が多いのが現実だと思います。この言葉の本当の意味は、結果を出すことではなく、やろうとする決意とやり抜く強い意志をもつことにあります。

竹内選手が目指したのは金メダルです。銀メダルは一つ獲得することができましたが、目標は達成できませんでした。しかし、7大会連続で冬季五輪に出場するという偉大な記録をつくりました。大会後のインタビューで、竹内選手は「競技人生にメダルが一つあるのは幸運なことですが、それ以上にスノーボードを通じて出会った皆さま、そして経験が何よりの財産です」と話していました。

皆さんはこれからの人生において、「自分には無理かもしれない」と思う場面に出会うことがあるでしょう。そんなとき、まずは一歩を踏み出してみてください。「成し遂げたい」という強い願いをもち動き出すことです。動けば景色が変わります。結果が出なくても、それは必ず次へ繋がる経験となります。

皆さんが歩んできた義務教育9年間の道のりにも、多くの経験と様々な学びがあったことと思います。楽しい経験をした人は、やる気を得ました。悲しい経験をした人は、思いやりの大切さを知りました。目標を達成した人は、自信をつかみました。辛い思いをした人は、耐えて諦めない底力を身に付けました。また、一橋教室やカルガモ教室、あゆみ教室を利用していた人たちも、自分と向き合い、自分の良いところに気付き、自分に合った学びの場を見つけました。皆さん一人一人が、人生にしっかりと向き合い、自分の力で進む道を決めました。自立に向かう姿はとても立派でした。

それではいよいよお別れです。私が皆さんに伝えてきたこと、それは挨拶の大切さです。挨拶には、礼儀やマナーなど、形として身に付けなければならない挨拶もありますが、本当に大切なのは、尊重や感謝、思いやりが自然に挨拶となって表れることだと思います。自分の気持ちを素直に伝えられる人になってください。

授業や部活動を終えた帰り際に、校庭から校長室に向かって「さようなら」と声をかけてくれた人たちがいました。とても嬉しかったです。ありがとう。

結びに、保護者の皆様、ご来賓の皆様、そして地域の皆様、これまで本校の教育活動へのご理解、ご支援、誠にありがとうございました。深く感謝申し上げます。

小平四中は「心のふるさと」です。この学び舎を巣立っていく生徒たちは、これからもここ小平の地において、皆様のお力添えをいただくものと思います。今後ともご指導のほど、よろしくご願い申し上げます。

卒業生の皆さんが、誰一人取り残さない社会を実現することを願うとともに、無限の可能性を秘めた未来への旅立ちを祝し、校長式辞といたします。

